

平成19年度及び平成20年度食品健康影響評価技術研究課題の中間評価の結果について

1 平成19年度食品健康影響評価技術研究課題

研究課題番号	研究課題名	主任研究者	所属組織	研究期間	評価結果	コメント
0701	遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発	土田成紀	弘前大学	平成19年度～21年度 (3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、一定の成果が得られているが、ラットでの結果をヒトへ外挿できる実験系の確立を優先して、継続することが妥当。平成21年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実にすること。
0702	ヒト肝組織を用いたアクリルアミドの変異原性の評価とその関連遺伝子の解析	笹野公伸	東北大学	平成19年度～21年度 (3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成21年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実にすること。
0703	化学物質による肝肥大誘導機序の解析を基盤とした肝発がんリスク評価系の構築	出川雅邦	静岡県立大学	平成19年度～21年度 (3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成21年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実にすること。
0704	毒性データの不確実性とヒトへの外挿法に関する研究	長谷川隆一	国立医薬品食品衛生研究所	平成19年度～21年度 (3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成21年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実にすること。
0705	予測微生物学的解析手法を用いた微生物学的リスク評価システムの開発	小関成樹	(独)農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所	平成19年度～21年度 (3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成21年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実にすること。
0706	腸管出血性大腸菌の牛肉を介したリスクに及ぼす要因についての解析	工藤由起子	国立医薬品食品衛生研究所	平成19年度～21年度 (3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成21年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実にすること。
0707	食用動物からヒトに至る薬剤耐性遺伝子の伝播の解明と評価手法の開発	青木宙	東京海洋大学	平成19年度～21年度 (3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成21年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実にすること。
0708	遺伝子組換え食品等のアレルギー性・腸管免疫影響のインビトロ評価系の開発	手島玲子	国立医薬品食品衛生研究所	平成19年度～21年度 (3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成21年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実にすること。

2 平成20年度食品健康影響評価技術研究課題

研究課題番号	研究課題名	主任研究者	所属組織	研究期間	評価結果	コメント
0801	日本人小児の鉛曝露とその健康リスクに関する研究	吉永淳	東京大学	20年度～22年度(3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。
0802	日本人の生体試料を用いた鉛・カドミウム等有害元素摂取量の全国レベルでの推定	池田正之	財団法人京都工場保健会	20年度～21年度(2年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成21年度は最終年度となることから、2年間のまとめを確実に行うこと。
0803	メチル水銀の継続的負荷による毛髪／血液水銀濃度比の個体差の解明	佐藤洋	東北大学	20年度～21年度(2年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成21年度は最終年度となることから、2年間のまとめを確実に行うこと。
0804	プリオン遺伝子ホモノックアウト牛の特性に関する研究	吉川泰弘	東京大学	20年度～22年度(3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。
0805	定量的リスク評価の有効な実践と活用のための数理解析技術の開発に関する研究	春日文子	国立医薬品食品衛生研究所	20年度～22年度(3年間)	継続	計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続・強化することが妥当。
0806	農場における鶏の食中毒菌汚染による食中毒発生に関するリスク評価法の確立	中村政幸	北里大学	20年度～21年度(2年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成21年度は最終年度となることから、2年間のまとめを確実に行うこと。
0807	受容体結合測定法を応用した新食品等の健康影響評価法の開発と応用	山田静雄	静岡県立大学	20年度～22年度(3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。
0808	食品健康被害に伴う社会的過剰反応の確認、予測手法の確立とこれを最小限に抑えるためのリスクコミュニケーション手法の確立	今村知明	奈良県立医科大学	20年度～22年度(3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。